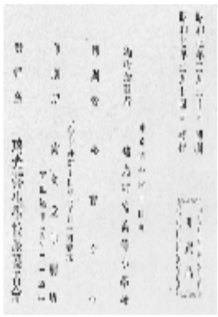
第542号
令和８年
4月20日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

校報瑞光（瑞光尋常　高等小學校）昭和七年（1932）三月廿四日発行より

昭和七年三月廿四日発行された校報瑞光創刊号より、入学準備と作文を抜粋しました。



○新人學兒童を迎へるに當つて尋一、二擔任（たんにん）異常な緊張を以て、學校生活の「スタート」に立つ新人學兒童。眼の中に入れても痛くない程可愛い我が子をスタートに送る親。天眞爛漫な彼等を相手とするスタート掛りとしての擔任訓導。以上の三者が一如となつて、相協力する三位一體の教育。これが低學年教育の本體でなければならぬ。然して我が子を送る親としての準備。彼らを迎える擔任者としての用意。此の準備と用意とが、如何に彼等兒童の生涯にとつて、大切なる役割をするものであるかは、恰（あたか）も、十分なる用意を以て驅出す走者のそれではなからうか。中略

二　親としての準備。

暑さ寒さのお厭（いと）ひなく、夜となく晝（ひる）となく丹精を罩（こ）めて、御育てなされた御子様がいよく學校生活の「スタート」にお立ちになるのであるから、親心として申し上げるまでもなく、充分なる御準備がなされて居られる事とは存じますが、御参考までに其の二三を申し述べますと

1、「自分のことは自分でせよ」の躾け。

例へば朝起、洗面の事から、脱ぎ捨てた履物、帽子の始末、玩具、繪本、學用品、其の他自分の物は自分で整理するやうに躾けること。

2、宗教心の芽生えを培ふこと。

彼等兒童の純真無垢なる神の如き経験的心情は、日月（じつげつ）、星辰（せいしん）、禽獣（きんじゅう）、草木、總（すべ）て是れ神秘的有情の者と觀る。そこに無意識的宗教生活を生活しつゝあることが察知される。

此の芽生を培つて

イ、毎朝夕神前に額（ぬかず）いて禮拜（らいはい）すること

ロ、毎朝夕祖先の靈（れい）に向つて禮拜すること

3日常生活を習慣づけること。

イ、毎朝起床したならすぐに用便し、それから髪の手入れ洗面、食事といふやうに規律的習慣をつける。

ロ、毎朝必ず歯を磨き、毎晩就寝前に含水して口中を清潔にする習慣をつける。

ハ、鼻紙と手拭は常に用意してゐて涕汁（はなみず）や顔の汚れを拭きとり、手指其の他清潔にする習慣をつける。

ニ、夜更かし朝寝をせぬやうに起床、就寝は一定の時刻により規律的に習慣づける。

4入学式までに

イ　自分の氏名、年齢、住所及び保護者の氏名等がはつきり言へるやうにしておくこと。

ロ　羞恥、買ひ食ひ、其の他の癖を直しておくこと。

ハ　通學の道すぢ、學校名等を覺えさせておくこと。

ニ　學用品その他、帽子、傘靴、鞄等、總て兒童の所有する品物には氏名を書いて、而もそれが其の子に読めるやうにしておくこと。

5常に兒童の健康に注意して毎朝、子供の顔色、態度に氣をつけて頂きたい。

トラホーム、耳だれ、虫歯及び皮膚病、傅染（でんせん）病等は即刻醫師（いし）に相談して直して頂きたい。

入學式には保護者または代理人付添ひで登校して頂きたい。

以上の五項目は入學児童を持つ親としての準備である。

※　※

チンドンヤ

尋六　齋藤三郎

チンドンくくチンくドンく、「ア、さぶちやん、裏の方へ何か来たよ、行ってみないかネー」と言ひながら、僕を引張つた。ビリく「ア、大変、見ろお前がそんなに引張つたからだぞ、」「安全ピンでそこをとめておきな、」早く行かうよ早くと、僕をせきたてる。仕方なく言はれるまゝに行つて見た。なる程天気の好いのに小さな日傘をえり首にはさんで「えゝ皆さんお集まり下さつてありがとうございます」只今よりちよいと一口しやべらしてもらうことにします。」エヘンときばつて話しだした。時々人の笑ひ聲（こえ）がどつと起る。しばらくは口が減らないか思はれる程、べラくしやべつてゐた。「これで皆さんとお別れ致します。ではさようなら。」面白いねと合せながら。あつちへ行つたり、こつちへ行つたり、首をふりく一歩々々遠ざかつて遂に消えてしまつた。